

山本秀雄先生記念号によせて

山本秀雄先生は、1960年4月に大阪府立大学経済学部より本学経済学部を迎えられ、以来1989年3月に定年退職されるまで、29年の長きにわたって本学ならびに経済学部の発展に尽力され、学問の府としての本学の名声を大いに高められました。

先生は経済学部において長年にわたり企業形態論を続けられたのち経営学総論の講義を担当され、多くの学生の教育に当たられるかたわら、ゼミナール・大学院における研究指導を通じて、多くの研究者を養成されました。この間、1967年4月から69年3月まで経営学科長、1971年4月から73年3月まで経済学部長兼大学院経済学研究科委員長ならびに立教学院評議員、さらに1981年4月から83年3月まで大学院経済学研究科博士課程後期課程主任を歴任されて、本学の教育・研究の充実、発展のために意を注がれました。とりわけ、経済学部長任期中は、「学園紛争」の余燼の中での教育・研究体制の再建に全力を尽くされました。

先生の研究業績は、なによりも、学位論文『イギリス企業集中の研究』（有斐閣、1988年）に集大成されております。

先生の研究の主眼は、一貫して、「自由競争が資本主義的生産の法則そのものによって独占に転化する」という命題をイギリスにおいて検証することにあります。ドイツ、アメリカに比較してイギリスの独占形成が鮮明な姿をとって現われてこなかったために、日本ではイギリスの企業集中の構造的特質についてあまり顧みられなかった経緯がありますが、先生は「自由競争に基づく資本主義を真先に確立したイギリスにおいて独占形成の範例ないし普遍性が貫かれて然るべきである」との問題意識のもとに、当時のイギリスの基幹産業である石炭業、鉄鋼業および綿業における企業集中の構造的特質を克明に分析されました。

先生の詳細な実証分析を通して明らかにされたイギリス独占形成の特質、すなわち、「世界の工場」としての先進国のゆえにもたらされた「国内競争者の多数の存在と集中の低さ」、「海外投資の優越性による国内産業の技術革新の停滞」、「高収益の資本還元による暖簾の創出と水増し財務政策の寄生的な企業金融方式」に象徴される産業構造上の弱体性の剔出は、日本の経営学界、経済学界における独占研究の間隙を埋めるものとして高い評価を与えられております。

先生の企業集中に関する研究はまた、その必然的な発展として国家独占資本主義段階における企業の国有化・公企業ならびに公益事業の分析に及び、幾多の業績を

世に問うております。とくに、地方公営企業における財政上の諸問題や独立採算制度などに関する研究は、多くの困難を抱えている地方公営企業に現実的な指針、方策を提起されており、こうした研究成果は、学会はもちろん、実務者のなかにおいても高い評価が与えられていることはいうまでもありません。

先生の学界および社会における活躍もまた顕著であります。公益事業学会評議員を長く歴任されて経営学の研究・教育の発展に活躍されているのをはじめとして、埼玉県開発審査会会長代理、埼玉県建築審査会会長代理および宇都宮市公文書公開審査会会長代理に任せられ、地域経済の発展や地域社会の民主化のために、その豊富な学識と経験とを生かされております。さらに、先生は現在勤めておられる作新学院大学の新設に尽力され、経営学部にあっては学部長として、大学の基礎づくりに活躍されておられます。

このように研究者として、また、教育者として、学界ならびに地域社会において目覚ましい活躍をされ、とくに理論的研究と社会的実践の統一的方向で努力を傾注されてこられた先生の姿は、私ども後進のものにとって大きな励みとなっております。多年にわたって先生から戴きました数々の御指導、御教示を私どもは心から感謝申し上げます。

立教大学は、先生の学術上、教育上の功績の顕著なことにより、1989年7月、先生に名誉教授の称号を贈りました。

いま、先生の定年退職を迎え、経済学部の発展に尽されました先生の御功績を永くとどめるため、本号を先生の記念号といたします。

先生のこんごの御健康と御活躍を祈念すると同時に、これまでと変わらぬ御助力を経済学部のために賜われますようお願い申し上げます。

1989年7月

経済学部長 丸山 恵也